



学校だより

令和6年1月31日(火)

2月号 No.12

横浜市立大豆戸小学校

TEL543-7911

知識より実践、意欲より行動

副校長 山谷 浩司

二十四節季の一つ「大寒」が過ぎました。大寒から節分までの間が、一年で最も寒い時期とされています。節分の翌日は「立春」で、暦の上ではこの日を境に春ということになりますが、身に堪える寒さはしばらく続きます。そんな厳冬期にも拘わらず、一足早く春の訪れを感じさせてくれる桜があります。ご存じの方も多いかと思いますが、伊豆半島に起源をもつ「河津桜」です。

河津桜は伊豆の温暖な気候と早咲き桜の特色を生かし、2月の月上旬から開花し始めます。満開の期間を長く持続できる特徴もあります。河津桜の原木は、1955年2月、地元の飯田勝美氏が河津川沿いの冬枯れ雑草の中で芽吹いていた苗を見つけ、庭に植えたことに由来します。1966年頃から桜の開花が見られるようになり、1月下旬から1ヵ月間にわたって淡紅色の花を咲かせたことで、近隣の人たちから注目を集めるようになりました。1968年から桜を増やす活動が始まり、原木が河津町にあったことから1972年に「カワヅザクラ」と正式に命名されました。そして、1975年には「河津町の木」に指定され、今日に至っています。

～アイデアだけでなく、そのアイデアを実行することが発明である～

この名言はドイツの文豪:ゲーテによるものです。詩人、劇作家、小説家、哲学者、政治家等、多岐にわたって才能を発揮したゲーテらしい切り口の名言と言えます。ゲーテは書き下ろした書物の中で「知識より実践、意欲より行動」と述べており、知識や意欲だけでなく、実践すること、行動に移すことの大切さを提唱しています。

河津桜に話を戻しますと、桜の苗を見つけた飯田氏が、「苗を植える」という具体的な行動を取らなかったとすれば、苗は立ち枯れてしまい、河津桜の誕生に繋がらなかったかもしれません。このエピソードは、興味・関心を抱くだけでなく、もう一步踏み込んで実際に行動してみるものの大切さを示しているといえます。

大豆戸小周辺にも桜の名所があります。鶴見川に沿って併設されている遊歩道には、断続的に桜並木が続いています。私事になりますが、2021年6月に両足の種子骨の骨折が判明し、運動制限を余儀なくされるまで、約30年にわたって鶴見川マラソンコースをジョギングしていました。綱島街道の大綱橋下の遊歩道を起点に、ドライビングスクール、港北高校、新横浜駅前公園を左に見ながら進み、新横浜元石川線に突き当たるポイントで折り返して大綱橋まで戻ります。更に駒岡方面に向かって1km下った樽網橋で折り返し、再び大綱橋に戻る10kmのコースです。このコースの特徴は、桜を楽しめるポイントが多いことです。鶴見川を渡る水分を多く含んだ空気が花持ちをよくしてくれるのか、咲き始めから2～3週間桜を楽しむことができます。散り初めの時期も爽快です。桜吹雪の中をジョギングすると、たくさんの花弁が顔や体に纏わりつきますが、それが心地よく感じられます。現在、種子骨のリハビリを兼ねて大綱橋と末吉橋を往復する6kmのジョギングに止めていますが、桜の開花が見られる時期は新横浜コースに戻して、荘厳な景観を楽しみながら走ろうと思います。鶴見川という唯一無二の環境を活かした郷土の誇れる桜並木を、これからも末永く見守って行きたいと考えています。

2月はこれまでの学校生活を振り返ったり、学習のまとめを行ったりする大切な時期です。一年間の成果と課題を明らかにし、改善すべき点やさらに伸ばすべき点について検証したり確認したりする時期でもあります。特に、思考力、判断力、表現力といった課題解決に必要な能力は、個人の力だけでは身につけにくいものです。他者との関わりや対話、意見交流を通して、自分の考えと比較したり、友達の考えや着想に触れたりしながら、よりよい考えを導き出す過程で、少しずつ伸ばすことができます。意見や考えを自分の中だけに閉じるのではなく、協働的な学びの中で発信し、合意形成していくことが必要になってきます。ゲーテが提唱する「知識より実践、意欲より行動」は、この過程でも大切にしたい資質の一つになります。

知識や技能を習得させるだけでなく、実践力や行動力を引き出しながら子どもたちの資質・能力を伸ばしていくことは簡単なことではありません。教職員は児童の成果と課題を把握し、次時の学習に繋げられるように、授業準備に取り組んでいます。また、児童の実態に則した授業展開となるように、教材研究に勤しんでいます。今年度も残り少なくなりましたが、引き続き、本校の教育活動へのご理解とご協力を、よろしくお願い致します。